



「一緒にこの場所を作ったんだ」と言える仲間になってください。

寄附のお願い

建物の金額は、1億3千万円。建物の修繕やランニングコストを考えると、これからかかる費用は2億円を越えると予想されています。「一緒に作るんだ」と言ってくれる仲間になってください。

設立スタートアップサポーターになりませんか

原則、100万円を一口として寄附を受け付けさせていただいております。下記お振込先にお振込の上、寄附した旨を下記メールフォームまで必ずご連絡ください。

三井住友銀行 天下茶屋支店（店番号 448）普通 7282231
特定非営利活動法人 西成チャイルド・ケア・センター

寄附報告用メールフォーム
お礼やリターンのご連絡・HPへのお名前掲載に必要となりますので、必ずご記入ください。



寄附をいただいた団体様とは物理的なリターンではなく「長期的にこの場を共に作っていく」ことで関わっていただきたいと考えております。

- にしなり☆こども食堂のお手伝いができる権利
- 夏休みキャンプへボランティアご招待
- ホームページにお名前の掲載（寄附を広告宣伝費としていただけます）

「勉強のため、社員を現場に行かせたい（新入社員・幹部問わず）」「こんな関わり方を自社から提案したい」といったお申し出も大歓迎です。

クラウドファンディング準備中！

2025年12月からクラウドファンディングをスタートします！！
日本屈指の大型クラウドファンディングとなる予定です。ぜひご協力をお願いします。川辺のSNSをフォローして開始をお待ちください。



instagram

X



特定非営利活動法人 西成チャイルド・ケア・センター

〒557-0022 大阪府大阪市西成区南開2丁目4-22 にしなり★つながりの家
TEL&FAX 06-7709-5432

安心して住める泊まれる 親子が生き直す場をつくります

にしなり★つながりの家 2nd project

にしなり 育ち直しの家

人のあたたかさの中で暮らすことで
人は生き直すことができる。

いくつになっても。

「いっしょにごはん食べよ」のその先まで関わりたい。
親子の人生を立て直す「泊まれる居場所」を作る時が来ました。
みなさんのお力を貸してください。

特定非営利活動法人 西成チャイルド・ケア・センター



”いっしょにごはん”のその先まで 関わりたいと、ずっと思っていました。

にしなり☆こども食堂の始まりは2010年。あそびの広場を開催していた時に、関わっていたこどもたちが荒れているのを見て「お腹すいてるんちゃうかな?」と、一緒にごはんを作つて食べたのがきっかけでした。あつたかいご飯と、人と触れ合う時間で、しんどい状況にある人も回復していく。そう感じで場を広げ「にしなり★つながりの家」を設立した2022年9月。唯一、まだ実現できていないことがあります。

「一緒に暮らすことで生活を立て直す、泊まれる居場所が作りたい」。

2021年に、マンションの一室を借りて「滞在型親子支援」を実施したことがありました。様々な問題を抱え、生活が崩れてしまった人にとって、自分で立て直すことは難しく、一緒に暮らしながら、生活リズムや心身を回復することの必要性を感じていました。

何より人は、人と関わることで変わっていく。

それを実感していたからこそ、ごはんを食べる・日中を共に過ごすというだけではなく「共に暮らす」場を作りたいとずっと思っていました。

そして、2025年9月。それを叶えるのにぴったりな物件と、奇跡的な出会いがありました。いてもたってもいられず、仮押さえ。信頼できる仲間の協力のもと大きな借金をして、物件を取得することを決めました。

その金額、1億3千万円。修繕費や運営コストを考えると、2億円を必要とする一大プロジェクトです。

私の人生最後のプロジェクトだと思っています。

「川辺さんがそう言うなら、しゃあないな。言い出したら絶対やるもんな」
そう言って、最初に手を取ってくれた仲間たちに報いるため
作りたかった世界一みんなで助け合って生きていく「大きな地域の実家」を作るため、必ず走り抜きます。
みなさんのお力を貸してください。

特定非営利活動法人 西成チャイルド・ケア・センター 代表理事 川辺康子

西成の親子の現状

21.9万件

年間児童虐待対応件数

当センターで昨年対応した緊急保護件数は500超、その多くが深夜の時間帯でした。



帰る家がなく、暴力を振るうパートナーの家しか居場所がない自分自身は妊娠している…そんな10代の女の子たち

30%以上

西成区のこどもの貧困率

1/4世帯が生活保護受給。食事を満足に摂ることができない家庭が多くあります。



親が帰ってこない、暴力を振るうだから家に帰りたくない…と夜の街を徘徊し、犯罪に巻き込まれることで、普通の生活が送れないこどもたち

約50%

西成区のひとり親世帯率

外国人・障がいのある方のひとり親世帯も多く、社会との断絶で助けを求めることが多い



一緒にごはんを食べるだけでは救えない人がいる。長く関わること、深夜でも一緒にいられる場所があること。今危険にさらされている命を守り温かく育て直す居場所が必要です。



2019年発行冊子より：現在の「つながりの家」構想時から「一緒に暮らせる居場所」を目指してきました。



やっと見つけた「あたらしい居場所」 そこできること。

※これから利用者の安全を第一に考え、居場所の外観や場所は公開致しません。

「帰る家がない」「家が安全ではない」さまざまな過酷な理由で家に帰ることができず、公園で夜を明かしたり、危険にさらされたり、また、家にいても生活がままならず、社会と断絶されてしまう親子やこどもたちがいます。彼らに必要なのは「真夜中にたどり着いても受け入れてもらえる」「落ち着くまでそこで暮らすことのできる」居場所です。



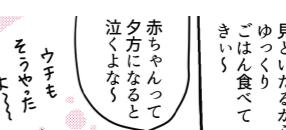
リフォーム前の間取り。
3階建て、複数の家族が
共に生活できます。



福祉による一時保護が必要な
ケースはありますが、こどもの行動を
制限することも。一時保護の前の
心や生活を立て直す
回復の場所として

温かいごはん、規則正しい生活
人と向き合ってもらえる経験で
心や生活を立て直す
回復の場所として

安全な場所でも、人間関係はある。
面倒なことや間違いを正して
もらう経験もして、もう一度
人生を生き直す場所として



あたらしい居場所・人との関わりで、人は生き直し変わることができます。
かかる時間はそれでも、全ての人に「幸せになっていいんだよ」と伝えたいです。